

平成19年度病害虫発生予報第1号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	イネミズゾウムシ	-	やや少
水稲共通	ヒメトビウンカ(防除情報第1号) 縞葉枯病(防除情報第1号)	- -	並 やや多
麦 類	うどんこ病 赤かび病	少 -	少 並
ばれいしょ	疫病(防除情報第2号) アブラムシ類 ジャガイモガ	並 並 やや多	並 並 やや多
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	並 並 並	並 並 並
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 やや少 やや少 多	やや少 やや少 やや少 多
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並(旧葉) 多(旧葉) やや少	並 やや多 やや少
な し	赤星病 黒星病 アブラムシ類	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多
ぶ どう	黒とう病	やや多	やや多
果樹共通	クワゴマダラヒトリ 果樹カメムシ類	やや多 少	やや多 少
茶	カンザワハダニ クワシロカイガラムシ	並 やや少	並 やや少

【発生予報】 本文の( )内は平年値

早期水稲

1. イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容  
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠  
前年はやや少ない発生であった。

水稲共通

- 1. ヒメトビウンカと縞葉枯病  
平成19年4月10日付け、病害虫発生予察防除情報第1号による。

## 麦類

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 少

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(二条大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(二条大麦・裸麦:発生を認めない。小麦:発生茎率2.4%、発生圃場率18.1%)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(二条大麦:発生を認めない。裸麦:0.1%、小麦:0.9%)。

### 2. 赤かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降、曇天・降雨が続き気温が20~27と比較的高くなると多発するので今後の気象の推移に注意し防除を徹底する。

イ 防除薬剤は予防効果主体で発生を認めてからの防除では効果が劣るので予防散布に努める。

ウ 薬剤散布に当たっては使用基準を遵守する。

## ばれいしょ

### 1. 疫病

平成19年4月17日付け、病虫害発生予察防除情報第2号による。

### 2. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は8.3%(8.8%)、発生圃場率は58.3%(49.9%)であった。

### 3. ジャガイモガ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は0.9%(0.0%)、発生圃場率は12.5%(1.2%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア いもが産卵を受けないよう土寄せを十分行う。また、掘り取ったいもは圃場に長く放置しない。

イ 春作における防除時期の目安は、1回目が出芽後15日頃、2回目が5月上~中旬、3回目が6月上旬頃(県病虫害防除基準より)であるので、これを参考に防除薬剤の茎葉散布を行う。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並 (前年比)

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(前年0.0%、前々年0.1%)、発生圃場率は8.3%(前年8.3%、前々年25%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.5%(0.9%)、発生圃場率は41.7%(42.0%)であった。

3. コナジラミ類(外コナジラミ類、オシロイソウシ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.1%(1.8%)、発生圃場率は50.0%(24.6%)であった。

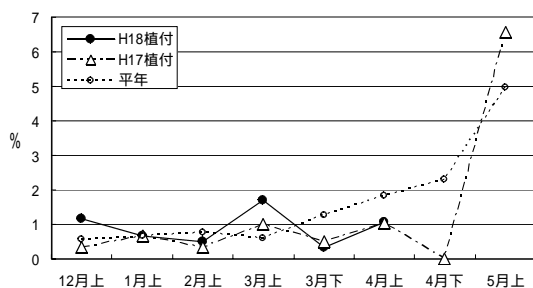


図 トマト コナジラミ類寄生株率の推移

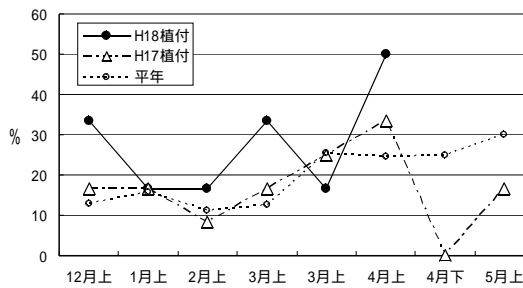


図 トマト コナジラミ類発生圃場率の推移

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発病株率0.2%(0.7%)、発生圃場率8.3%(13.8%)、果実では発病果率0.0%(0.5%)、発生圃場率4.2%(19.1%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発病果率0.1%(0.2%)、発生圃場率12.5%(23.6%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率0.1%(1.1%)、発生圃場率4.2%(8.7%)であった。

4. ハダニ類(ナメハダニ、カザリハダニ)

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率25.6%(10.5%)、発生圃場率66.7%(39.7%)であった。

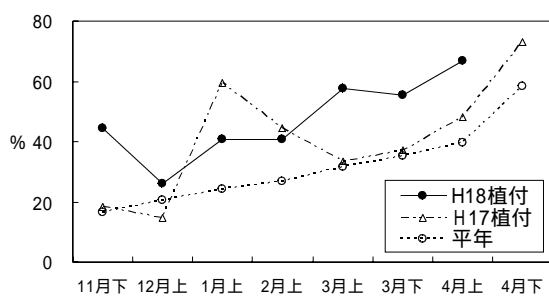


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

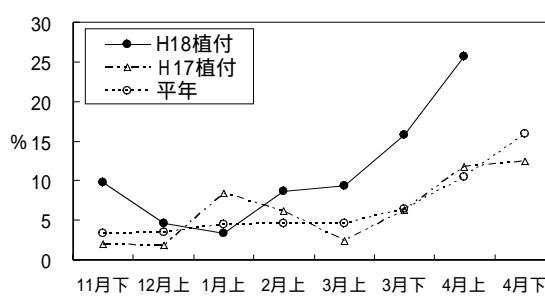


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は下葉かき等、古葉の整理を行い、散布むらがおこらないように、十分量を丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率2.1%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は1.2%(0.4%)、発生圃場率は43.6%(11.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病に対する耐病性が弱い品種や旧葉に病斑が多い園では、新梢への感染を防ぐため展葉初期に薬剤散布を行う。

イ 薬剤散布に当たっては樹勢に留意する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.9%(2.0%)、発生圃場率は10.3%(24.1%)であった。

なし

1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.7%)。

イ 巡回調査圃場周辺のビャクシン上の冬孢子堆形成調査の結果、発生を認めなかった(発病枝率1.4%、発生地点率5.8%)。

## 2. 黒星病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生新梢率は0.6%(0.4%)、発生圃場率は54.5%(18.8%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性が生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## ぶどう

## 1. 黒とう病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は16.7%(5.9%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 果樹共通

## 1. クワゴマダラヒトリ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査の結果、佐世保市のかんきつ園、時津町のぶどう園で発生が認められた。

イ 病虫害防除員の報告によると諫早市、大村市、松浦市、時津町、西海町の果樹園や周辺の雑草で多発生しているところがある。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹園で発生すると新梢や花蕾に大きな被害を及ぼすことがあるので、園地をこまめに見回り早期発見に努める。

イ 果樹園内や周辺の除草を行い、果樹園への侵入を防ぐ。ただし、すでに園内に侵入している園で除草を行うと、樹上に移動し新梢の被害が拡大する場合がありますので注意する。

## 2. 果樹カメムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

ア 1~2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.1頭/m<sup>2</sup>(0.4頭/m<sup>2</sup>)と少なかった。

イ 諫早市、多良見町、西彼町、有家町のフェロモントラップでの誘殺量は少ない。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.6%(1.2%)、発生圃場率は25.0%(25.3%)であった。

2. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

昨年の第3世代の発生量は平年よりやや少なかった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 今年はやや暖冬傾向であったため、第1世代の発生が平年より早くなることが予想される(表)ので注意する。

イ 今後もふ化盛期予測日等は予察情報や病害虫防除所ホームページに掲載する予定であるので参考にする。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測ピーク日

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五 島 大 津
平成19年	5/15	5/22	5/26	5/18	5/6
平成18年	5/22	5/31	6/2	5/27	5/13
平 年	5/21	5/28	6/1	5/25	5/18

注1：ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2：ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3：平成19年4月13日現在で予測し(1月1日~4月12日まで実測値)、4月13日以降のデータは平年値(過去10年の平均)を利用した。

注4：同一地区内でも標高や土地条件等で発生ピーク日が異なるので注意する。

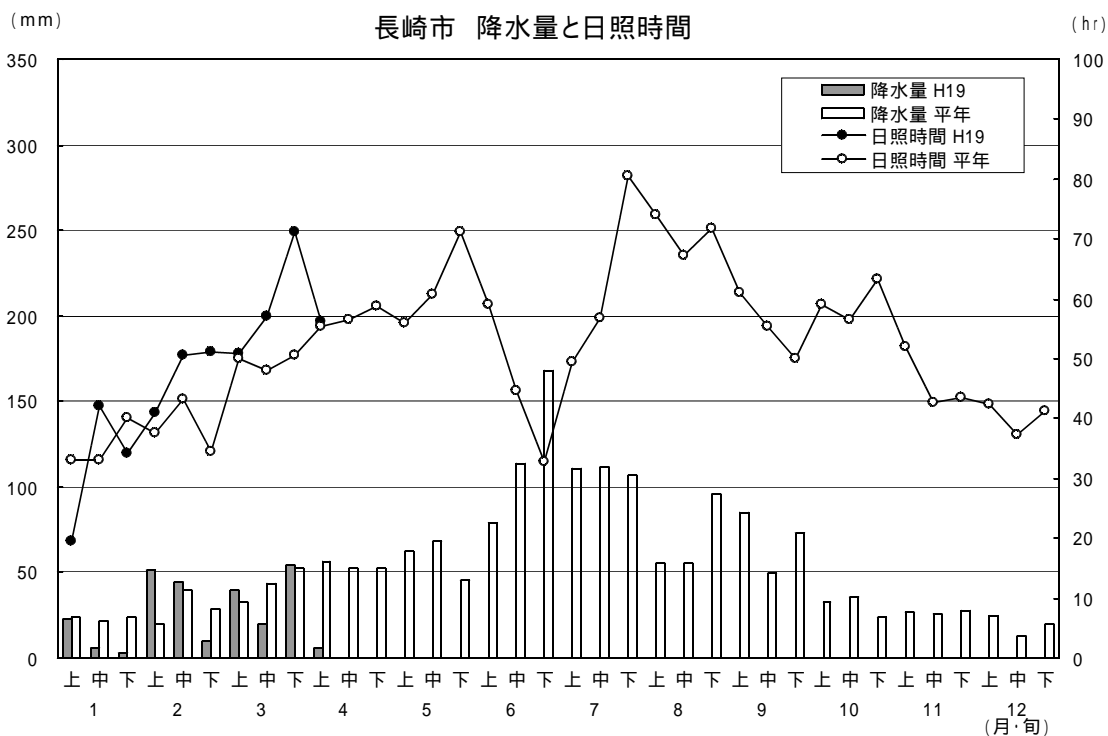
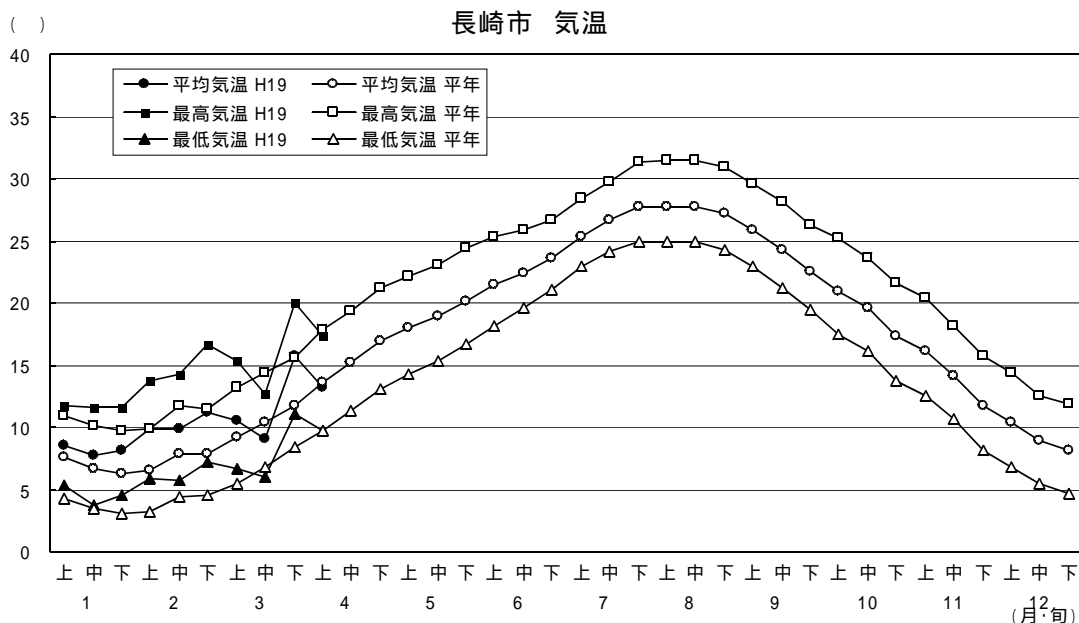
【参考】

気象（平成19年4月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台）

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域



「農薬使用基準の遵守について」  
 農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

---

文中の市町村名は合併前で表記しています。  
病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>  
「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制  
アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。  
この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。  
長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp